

既設コンクリート構造物の予防保全を目的とした調査・診断・補修に関する研究委員会
第5回 WG1、2（合同） 議事録（案）

■日時：2019年8月26日（月） 10:30～13:00

■場所：JCI 本部

■出席者：山口幹事、濱崎幹事、審良委員、井上委員、都築委員、皆川委員、宮内委員、松沢委員、飯塚委員、花房委員、山本委員、江良委員、竹田委員長、十河顧問、戸口事務局

■配布資料：

W5-1 第4回 WG1,2（合同）議事録（案）

W5-2 報告書目次案

W5-3 報告書 WG1 目次・担当案

W5-4 補修工法の分類、評価手法（電気化学的防食）

W5-5 補修工法の分類、評価手法（表面含浸）

W5-6 補修工法の分類、評価手法（表面被覆、下水道）

W5-7 補修工法の分類、評価手法（ひび割れ補修）

W5-8 補修・改修設計規準 第4章 材料および工法の選定（建築学会資料）

W5-9 建築保全標準 1章 総則（建築学会資料）

■議事

1. 議事録確認

- ・第4回合同 WG（5/31）の議事録案について内容を確認した。

2. 議事

1) 報告書目次案について

- ・予防保全の定義を明確にしておく必要がある。
- ・第3章と第4章の流れを考慮し、WG1 と WG2 でとりまとめる内容とその記述順序を再考する。
- ・WG1 では工法ありきで情報収集してとりまとめているが、実際には劣化現象に応じて対策工を決めるという流れとなるはず。この流れを報告書でうまく表現するために WG1、WG2 の連携が必要。
- ・目次案の「3.2.1 変状の要因と補修工法」で全体像と入口を示す。この箇所は WG2 で執筆を担当していただく。その際、資料 W5-8「補修・改修設計規準 第4章 材料および工法の選定」に記載されている内容が参考となる。
- ・WG2 では環境評価、性能評価について情報収集している。その際、他委員会の成果も活用してとりまとめる。
- ・WG1 の成果をもとに WG2 を別途開催して作業を進めるが、補修後の効果確認については WG1 との合同作業としたい。

2) WG1 各工法の整理について

- ・W5-4 電気化学的防食については、施工中に行うチェック項目も存在する。

- ・仮設の容易さによっても工法選定の判断が変わってくるはず。それらを含めた総合的な工法選定のストーリーは WG3 の記載内容に盛り込んでいただく。
- ・W5-5 表面含浸工ではコスト情報を NETIS から引用している。ただし、各工法で条件が異なるため一律の比較になっていない可能性もある。
- ・施工時のチェック項目はほとんど規格化されていないのが実情である。
- ・評価手順の適用①、②、③については、供試体で行う項目と現場施工時に実構造物にて行う項目を区別し、再度検討する。
- ・W5-6 表面被覆および下水道では、ほとんど NETIS 登録技術がないため、コスト情報などの根拠が示しにくい。あくまで参考値扱いとなる。
- ・特に下水道ライニングに関してはコスト情報がほとんど公表されていない。
- ・評価手順の適用①、②、③については再度検討する。下水道の場合は施工後 10 年間の保証を求められることが多いため、長期の性能確認まで行われている可能性もある。
- ・W5-7 ひび割れ補修では、NETIS 登録技術が少ない。ひび割れ注工については国土交通省の標準歩掛が公表されているため、それに準拠した試算結果を参考値として掲載することができる。
- ・ひび割れ充填工法については、可とう性エポキシ樹脂とシーリング材を区分する。評価は JIS A 6024 に準じる。
- ・評価手順の適用①、②、③については再度検討する。

3. 次回 WG (WG1・2 合同)

10 月 25 日 (金) 10:30～13:00

以上

【記録：江良和徳】